

ハムスターの新しい飼いかた

やまがたちゅうおうこう せいぶつ ぶ か がく ぶ
山形中央高 生物部・化学部

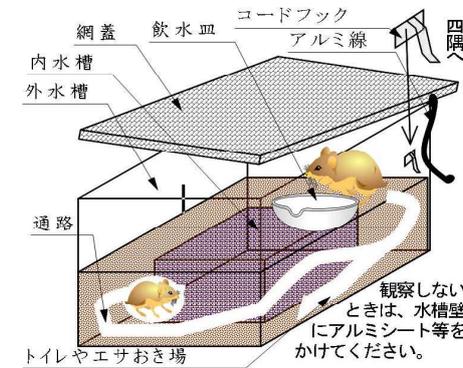
どんな実験なの？

ジャンガリアンハムスターの新しい飼いかたを紹介します。私たちは元々ハムスターが住んでいた土の中で飼育することで、様々なハムスターの秘密を見つけました。まず、トンネル掘りが大好きです。ゴールデンハムスターだと20分で1m掘ることもあります。トンネルにトイレを作ります。そして自分のうちやおしっこもおわないうよう、腸内細菌にきれいに分解させ、それどころか高タンパク質の食べ物にかえていました。また、あたたかい部屋をつくって、冬でもヒーターが無い部屋で元気にくらします。是非この飼いかたを試し、それをごらんください。



実験のしかたのコツ (ジャンガリアンハムスター用)

1. 45～60cm水槽に20cm位の厚さに赤玉土^{*1}とパームピート^{*2}を半々にいれます。
2. たれない程度水を入れ、エン麦の種^{*3}をまき、フタ^{*4}を用意して1週間待ちます。
3. エン麦の根が十分に広がったら、水のみ器、えさ箱、ハムスターを入れます。
4. 20分くらいで「本能・遺伝子の記憶」がよみがえり、穴を掘りだすでしょう
5. 土がかわいたら、少し水をかけてください。
6. 秋、寒くなったら麻ひもを3cm位に切り片手にひとつ位あたえます。自分で麻の綿^{*5}を作ります。
7. 元気がなくなったら、一時的に普通の飼いかたに戻しますが、寒さで死んだハムスターはいません。
8. 土が古くなるとコナガがでるので、土をかえます。古い土は花がよく育ちます。



どうしてこうなるの？

ジャンガリアンハムスターは、南シベリアの乾燥地帯で暮らしていました。でも本の紹介では、「10度以下、25度以上になると危険なので、ヒーターやエアコンなどを利用する」とあります。寒い冬が長く続く南シベリア生まれなのに、変ですね。1930年シリアのアハローニ博士がハムスターを学会に報告したあと、ハムスターは世界中で大量に繁殖させられました。一年中繁殖期の温度に

保ち、どんどん増やしたのです。今は、その検体を大量に供給する変な飼いかたが「普通」になっているのです。私たちの飼いかただと、教室内でもおわす、手間がかからずハムスターを飼うことができます。また、イナゴを入れてみてください。イナゴはさまざまな砂漠の生き物にとって、とっても大切なごちそうなのです。ハムスターの遺伝子が目覚めてとても素晴らしい狩りが観られるでしょう。

- *1 赤玉土: 園芸用土でほとんど無菌です。
- *2 パームピート: ヤシの皮で作った無菌無臭な土。100均で「水で増える土」として売っています
- *3 エン麦の種: 100均で「ネコのおやつ草」として売っています
- *4 フタ: 夏場は金網、春秋はガラス、冬場はガラス+ウレタンクッション等で防寒します
- *5 麻の綿: とても水はけのよい綿になります。普通の綿はべたついて病気の原因になります。

尚、麻の綿と土が無いと、ハムスターはヒーター無しで冬を過ごせません。(私たちも真冬に家が無いと死にます)

参考文献: 理学博士宇田川龍男著 ハムスターの本